



定植前のスターチス・シヌアータの苗



深川市一已地区の廣田和也さん



ハウス 1 棟に 870 株の苗を定植

北育ち元気村 花き生産組合では春の農作業が始まった。
同組合役員の廣田和也さん（深川市一已地区）のほ場では、2月28日からスターチス・シヌアータの定植作業が始まり、8棟のハウスに約7千株の苗を定植した。
廣田さんは「融雪の心配がなく、春作業は順調。定植は4月上旬まで行い、5月下旬の初出荷を目標としている」と話す。

JAきたそらちでは、ホームページとFacebookで、魅力満載の情報を発信中です！ ぜひ、ご覧ください！



～目次～

- ◆北空知管内
 水稻直播情報交換会を開催 — 3
- ◆平成31年度
 作物別生産者組織役員名簿 — 5
- ◆新連載
 「石田邦雄の農業紡ぎ愛」 — 10
- ◆平成31年度 機構図 — 16～18

第19回女性部通常総会 開催

2月22日、女性部（中村喜代子部長、部員522名）の第19回通常総会が開催され、部員59名が参加した。

総会前の学習会では、消費者問題研究所代表の垣田達哉氏が「本当に大丈夫？食の安全～テレビじゃ話せない食の裏話～」と題した講演を行い、食品表示の内容や意味、添加物表示の実態、健康食品が体内に与える影響などを解説した。参加した部員は普段口にしていない食べ物の実態や安全な食品の選び方を学び、「食品表示を何気なく見ているけど表示の意味がわかった」と話した。

総会では、事業報告・決算・計画議案が原案通り承認され、役員改選が行われた。新役員は下記の通り。

【営農企画課 三浦】

役 職	氏 名	支 部
部 長	本 橋 和 枝	音 江
副部長	吉 田 祥 子	深 川
副部長	竹 内 寿 子	多 度 志
理 事	平 野 あい子	イチヤン
理 事	澤 田 貴 子	北 竜
理 事	古 屋 光 代	幌 加 内
監 事	野 坂 彰 子	納 内
監 事	野々宮 敏 子	雨 竜



新役員による挨拶

農業
振興部

第18回「元気村・夢の農村塾」通常総会 開催

2月14日、アグリ工房まあぶにて「元気村・夢の農村塾」の第18回通常総会が開催され、同塾の会員や来賓、関係機関の役職員など40名が参加した。同塾は平成14年に設立し、北空知管内1市4町の農業者などが参加する。道内をはじめ、本州、台湾などから、毎年千人近くの中高生を受入れ農業体験を行っている。

開会にあたり、同塾の高橋久夫塾長は、「より多くの学生に北空知の農業を体験してもらうため、JA青年部や女性部と協力し、日本の学生だけではなく海外の学生の受入れにも力を入れていきたい」と挨拶した。

総会では、平成30年度の活動報告や平成31年度の活動計画などが原案通り承認され、総会終了後には、会員2名から学生を受け入れた時の体験談や思い出が発表され、学生との関わりで発見したことや、お礼の手紙をもらって嬉しかったことなどが発表された。



高橋塾長による挨拶



学生からはお礼の手紙が多数寄せられている

北空知管内 水稲直播情報 交換会を開催



3月7日、空知農業改良普及センター北空知支所が、水稲直播栽培の技術安定や収量・所得向上を目的に、水稲直播情報交換会を開催した。JA きたそらちとJA 北いぶき管内の生産者をはじめ、農業生産資材メーカー、関係機関職員など61名が参加した。

「水稲直播の雑草対策」と題した基調講演や、早生で直播向けの新品種「えみまる（上育471号）」の現地試験事例報告、生産者と普及センター職員の意見交換が行われた。

基調講演では、(公財)日本植物調節剤研究協会上川試験地の楠目俊三主任が、北海道の直播栽培における雑草防除について、稲とノビエの葉期毎に適した防除方法や、直播栽培に有効な新規除草剤成分について解説し、「一発剤による一回防除が効果的であるため推奨したい」と話した。意見交換では、司会を務める普及センターの光永光主査や妹背牛町直播研究会の熊谷勝会長が話題提供し、直播の導入を検討している生産者へのアドバイスや無代かき表面播種湛水出芽法、飼料用米「そらゆたか」の話題を中心に議論が行われた。



販売部

きたそらち種子馬鈴薯生産組合 通常総会

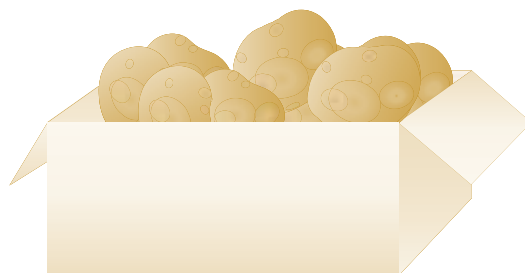
3月1日、きたそらち種子馬鈴薯生産組合（羽根清組合長、会員8戸）が、第20回通常総会を開催し、生産者や関係機関職員など26名が出席した。

開会にあたり羽根組合長は、「昨年の異常気象は馬鈴薯にとって良くない環境で収量も少なかったが、関係機関協力のもと行った3回の防疫検査を問題なく終えることができた。春作業も少しずつ始まっているが、ケガや事故には気を付けて豊作で高収入の年になるよう頑張っていきたい」と挨拶した。また来賓のホクレン岩見沢支所農産園芸課の萩原拓也氏は「異常気象など厳しい条件下でも良質な種子馬鈴薯を供給いただき感謝している。ホクレンとしても販売努力をしていくが、生産現場でも市場が求める需要の高い品種を作っていただき、種子馬鈴薯が豊作で高収入になるよう協力し合っていきたい」と祝辞を述べた。

総会では30年度収支決算や31年度事業計画などが原案通り承認された。



羽根組合長による挨拶



販売部

きたそらち和牛改良組合 総会

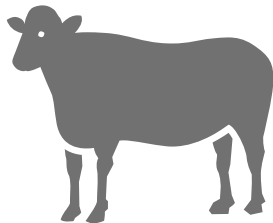
2月28日、きたそらち和牛改良組合(原田守組合長、会員15戸)が第19回通常総会を開催し、生産者や関係機関など20名が出席した。

開会にあたり原田組合長は、「市場の動向を見ても高価格の精液の入手が難しく心配しているが、これからも受精卵移植の取り組みに力を入れ高価格販売やブランド力の維持に繋げたい」と挨拶した。また来賓の当JA 柏木孝文組合長は「日本を代表する和牛にJAとしても助成を続けていくので、生産者の皆様にはブランド力を守っていただきたい」と祝辞を述べた。

総会に先立ち黒毛和種販売額・販売頭数の推移の説明と、高額販売牛を生産した組合員の共励表彰が行われ、メム地区の請川公一氏と一巳地区の野原章弘氏に表彰状が授与された。総会では30年度収支決算や31年度事業計画などが承認された。



原田組合長による挨拶



青果部

青果・花き生産運営協議会 総会

3月12日、青果・花き生産運営協議会(土居健一会長、会員20戸)が第19回通常総会を開催し、管内の各青果・花き生産部会役員など約30名が出席した。

総会前には、「GAP(農業生産工程管理)の取り組みについて」と題した講習会が行われ、空知農業改良普及センター北空知支所の若宮貞人地域第一係長が講師を務めた。若宮氏は当JA管内のGAP認証における今後の課題として、「リスクや損害が減るからとすぐに取得を目指すことも良いが、手間やコストを考え『GAPをする』という習慣づけから始めることが大事になる」と説明した。

総会では、土居会長の開会挨拶に引き続き、青果部から昨年度の販売額や訪問型巡回の実施・トレーサビリティ対策強化などの基本方針や振興対策が報告され、本年度の活動計画なども原案通り承認された。



平成31年度 作物別生産者組織役員名簿

作物部会名	組合長	副組合長	会 計	理 事	監 事
北斗メロン生産協議会	伊井 清隆(一)	糞口 清志(納)	(兼)糞口 清志(納)		橋本 健(一)
雨竜町メロン部会	橋本 貴之(雨)	谷本 貴志(雨)	須見 和之(雨)		造田 裕一(雨)
北竜メロン生産組合	前田 規文(北)	高畑 克洋(北)	石井 隆(北)	(兼)石井 隆(北)	竹林 信幸(北)
きたそらち果菜生産組合	折野 哲也(一)	松永 徹(秩)	沖田 孝俊(雨)		三谷 好美(音)
きたそらち豆類生産組合	石橋 裕司(北)	源 勝(雨)	(兼)源 勝(雨)		神尾 綾子(一)
きたそらち蔬菜生産組合	松田 力(北)	白岡 直樹(北)	種田 光男(納)	瀬川 佑司(雨)山本 時雄(音)	塩田 吉範(一)
きたそらち長いも生産組合	馬木 逸男(メ)	河合 暢(メ)	江幡 良博(メ)		桜井 博仁(メ)
きたそらち胡瓜生産組合	本瀬 修二(一)	五十嵐 幸男(一)	桑野 良寛(音)		川村 正人(音)佐々木 伸介(音)
きたそらち百合根生産組合	金谷 道宏(メ)	馬木 逸男(メ)	(兼)馬木 逸男(メ)		鈴木 努(幌)
きたそらちマダーボール生産組合	谷本 徹(雨)	宮武 稔(雨)	(兼)宮武 稔(雨)		(兼)谷本 徹(雨)
ひまわりすいか組合	渡辺 俊成(北)	続木 裕己(北)杉本 徳夫(北)	(兼)続木 裕己(北)		西野 利幸(北)
きたそらち大玉トマト部会	土居 健一(北)		漆原 尚生(メ)		
雨竜町ミニトマト部会	植村 裕希(雨)		(兼)植村 裕希(雨)		
きたそらちスイートコーン生産組合	高田 浩(雨)	中西 史(雨)	(兼)中西 史(雨)		中村 尚一(北)
きたそらち苺生産組合	尾崎 雅一(メ)	松浦 進(納)	原 聡(音)		尾郷 敏明(納)
きたそらち果樹生産組合	曾我部好美(音)	岡田 征雄(納)	瀬川 直希(音)	高村 雅紀(納)	高橋 親平(音)本橋 和枝(音)
きたそらち醸造ブドウ生産組合	真鍋 文雄(多)	佐藤 眞昭(多)			
きたそらちにんにく生産協議会	岡田 徹(納)	寶利 靖必(音)	増田 貴志(一)	江幡 良博(メ)	安達 明宏(北)
旬 菜 部 会	星野サチ子(一)	林 祐輔(音)	増田 慶仁(一)	阿波 一雅(メ)	吉田 秀一(音)
北育ち元気村花き生産組合	石田 隆広(沼)	田村 昌之(妹)竹林 義晃(北)	廣田 和也(一)	内藤 敬人(音)橋本 有由(納) 松井 守(多)折出 雅弘(雨)	近藤 洋介(メ)我部山 豊春(秩)

きたそらち青果・花き生産 運営協議会役員	会 長	副 会 長	理 事
	土居 健一(北)	本瀬 修二(一)	尾崎 雅一(メ)橋本 貴之(雨)竹林 義晃(北)
きたそらち青果・花き生産 運営協議会委員	伊井 清隆(一) 橋本 貴之(雨) 前田 規文(北) 折野 哲也(一) 石橋 裕司(北) 松田 力(北) 馬木 逸男(メ) 本瀬 修二(一) 金谷 道宏(メ) 谷本 徹(雨) 渡辺 俊成(北) 土居 健一(北) 植村 裕希(雨) 高田 浩(雨) 尾崎 雅一(メ) 曾我部好美(音) 真鍋 文雄(多) 岡田 徹(納) 星野サチ子(一) 竹林 義晃(北)		

※() 内は地区を表示しております。

音は音江、メはメム、一は一已、納は納内、多は多度志、雨は雨竜、北は北竜、幌は幌加内、秩は秩父別、妹は妹背牛、沼は沼田。

ボランティア野菊の会

桃の節句に笹だんご贈呈



3月1日、ボランティア野菊の会が笹だんご作りを行い、多度志保育園と多度志小学校に贈呈した。地元の食材を使って作る笹だんごの味を伝えることを目的に、平成12年から毎年、桃の節句に行われている。

今年は8名の会員が参加し、丹精込めて手作りの笹だんご60個を可愛らしくラッピングした。多度志保育園を訪問し、「みんなで食べてね」と手渡すと、受け取った園児は「ありがとうございます！」と大きな声で感謝の言葉を述べた。



【深川支所 田中】



北竜ひまわりライス生産組合 総会

北竜支所

3月13日、北竜ひまわりライス生産組合（川村功組合長、組合員124戸）が第15回通常総会を開催し、組合員や関係機関職員など56名が出席した。

総会前に開催された研修会では、当JA販売部職員が「30年産米の特徴を踏まえ、不測の気象変動に備えよう」、千田みずほ（株）の妹尾次郎氏が「生産情報公表JAS小分け認証取得と北竜ひまわりライスの販売展開について」と題した講演を行った。

総会では、議事の前に前年度共励会表彰が行われ、受賞した組合員に川村組合長から表彰状と記念品が渡された。議事では前年度収支決算報告や、本年度事業計画が原案通り承認された。

共励会表彰受賞者は右記のとおり。



【北竜支所 長谷川】

川村組合長による挨拶



<受賞生産者>

【うるち米】

『個人部門』

最優秀賞	(有) 山本農場
優秀賞	続木 裕己さん
優秀賞	松永 尊さん
優秀賞	伊藤 隆幸さん
優秀賞	吉田喜一郎さん

『営農組合部門』

最優秀賞	恵北営農組合
優秀賞	三谷営農組合
優秀賞	和営農組合

【もち米】

『個人部門』

最優秀賞	藤井 啓二さん
優秀賞	澤田 正人さん
優秀賞	大場 信一さん

納内年金友の会

平成30年度定期総会を開催

2月22日、秩父別温泉ちっぴゅう&ゆで、納内年金友の会の平成30年度定期総会が開催され、会員26名が参加した。

開会にあたり、撫養潔会長と来賓の鶴岡恵司深川市議会議員、谷岡優 納内地区代表理事より挨拶があり、共に地域活動をより一層盛り上げることを呼びかけた。

総会では水野稔さんを議長に選出し、30年度事業報告や平成31年度事業計画などが原案通り承認された。懇親会では会食や温泉を堪能し、参加した会員は楽しいひと時を過ごした。

【金融共済納内支所 平山】



米寿（昭和7年生まれ）を迎えられた会員
松下 正孝さん・宮崎 春男さん・梅田 利雄さん
宮井 百合子さん・谷岡 勝さん・田中 美知子さん
秋山 由喜子さん

イチヤン支所協和会 定期総会を開催

3月7日、本所大会議室でイチヤン支所協和会の第36回定期総会が開催され、会員39名が参加した。総会前には、深川市より保健師を講師に招き、認知症の人との接し方講話と手軽にできる健康体操講座を行った。会員は日々の健康維持について理解を深めた。

同会の松田隆夫会長の開会挨拶に引き続き、議事では30年度事業報告と31年度事業計画が原案通り承認された。また本年度役員には、新木貢選考委員長から報告された、下記新役員を選任することが満場一致で決定した。

【融資課 小松】



椅子に座りながら健康体操を体験する会員

役職	氏名
会 長	松田 隆夫
副会長	斉藤 利光
副会長	野坂 勲
監 事	水野 栄一
監 事	潮見 正通
理 事	(役員会で決定)

北竜支所年金友の会 総会

3月5日、北竜支所年金友の会の第29回総会が北竜町公民館大ホールで開催され、会員120名が出席した。

総会では、山下好晴会長と来賓の佐野豊北竜町長の挨拶の後、30年度事業報告及び31年度事業計画等が原案通り承認された。

総会終了後、北清裕邦北竜地区代表理事より会員の農協事業への協力に対して謝辞が述べられ、また金婚式と米寿を迎えられた会員にそれぞれ記念品が贈られた。懇親会では、当JA元組合長の黄倉良二氏が乾杯挨拶を行い、会食やカラオケ、ピンゴゲームなどで楽しいひと時を過ごした。

【金融共済北竜支所 西村】



金婚式

宮島	雅亮・きよ子	ご夫妻
高畑	耕一・良子	ご夫妻
初田	忠義・千代	ご夫妻
山下	好晴・良子	ご夫妻

米寿

村井	宣夫さん	竹林	花子さん
竹橋	清吉さん	吉田	重子さん
大岩	昭三郎さん	中村	節子さん
鈴木	春雄さん	氏家	カツヨさん
杉山	正位さん	加葉田	幸さん
堂前	邦子さん		

目指す職員像を全員で共有 役職員セミナー開催

当JAは今年2月、組合員との信頼関係をつくることのできる職員の育成を目的に、役職員の行動規範と目指す職員像をまとめた人的資源管理基本方針を定めた。制定内容を周知するため、3月15日に全職員を対象とした方針説明会を開催した。

説明会の中で総務部職員は、「本気の覚悟や熱意をもってヒトを育成していかなければ組合員、利用者、地域から信頼され共感される組織とはならない。立体的に様々な課題解決に動ける自律創造型職員を育成することを目指す」と話し、「きたそらちWAY（生き方）」と名付けた組織の方向性と目指す職員像を説明した。

また特別講師として、新得町出身で組織改革や人材育成の現場で活躍する石田邦雄氏を招き、働く意味やよい組織づくりについての基調講演が行われ、職員同士がお互いに仕事ぶりを高める環境づくりのヒントやアドバイスを受けた。

※今月号（10ページ）から石田氏による「石田邦雄の農業紡ぎ愛」を隔月で連載致します。是非、ご覧ください。

【人事課 廣田】



総務部

道内各地のJA集まり合同説明会を開催

3月7日、JAグループ北海道主催の就活生向け採用説明会が札幌市で開催され、2020年春に卒業する学生約200人が参加した。

道内JAを集めた合同説明会は昨年に引き続き2回目の開催で、当JAをはじめ25JAが単独で、札幌地区、空知地区、オホーツク地区のJAが合同でブースを出展し、地域の特産物の紹介や入組後の待遇などを説明した。

当JAでは、人事課職員の業務経験によるエピソードや、胆振東部地震による道内全域停電時に、自家発電機で地域住民へ燃料供給を行ったことなどを説明し、地域社会への貢献や職業としてのやりがいを伝えた。また、同行した若手職員が学生に近い目線で、日々の業務などを説明した。出展ブースへ足を運んでくれた学生には「ふっくりんこ」の無菌米飯を配布し、米産地としてのPRも行った。



【人事課 中川】

平成30年度 優良JA 表彰式



（写真提供：JA全中）

JA全中（全国農業協同組合中央会）が選ぶ、平成30年度表彰農協・農協功労表彰者において当JAが優良表彰を受賞し、3月8日に行われた表彰式でJA全中の中家徹会長から柏木孝文組合長が賞状と記念品を受け取った。

表彰農協は、組織が確立し民主的な運営がなされていることや、事業が組合員の経済発達に効果をもたらしていることなどの表彰規定に基づき全国のJAから選出され、今年は特別優良表彰にJA京都が、優良表彰に7JAが選ばれた。

経済部 資材課からのお知らせ

水稻育苗箱処理に デラウス剤※を使用されたことの ある皆様へのお願い

デラウス剤を育苗ハウス内で処理した場合、育苗箱からこぼれおちたり、漏れ出したりした薬剤が、土壤に浸み込み、後作物へ残留することが懸念されます。

本剤を過去に使用されたことのある方は、下記の注意事項を遵守いただきますようお願いいたします。

注意事項

以下の場合には、水稻以外の**食用作物の栽培を避けてください。**

○育苗箱に本剤を処理したことのあるハウス（施設）

○本剤を処理した育苗箱を搬入して育苗したことのあるハウス（施設）

◎**数年以上前に使用した履歴のあるハウス(施設)でも同様の注意をお願いします。**

●本剤の残留基準値は、水稻以外の農作物に対し一律基準値（0.01ppm）が適用されます。
過去に残留基準値を超過した事例は5件発生し、公表されています。

当該作物：小松菜・ミニトマト・アスパラ菜・春菊・胡瓜

主な原因：土壤混和した残土を育苗ハウス内ですき込んだ。

浸透しないシートを敷かずに散布し、その場所で他の作物を栽培した。 など

※デラウス剤は、以下の商品が対象となります。

単 剤	デラウス顆粒水和剤、デラウス粒剤
混合剤	デラウスプリンス粒剤06、デラウスプリンス粒剤10、デラウスダントツL箱粒剤、デラウスダントツ箱粒剤、デラウススタークル箱粒剤、デラウスパダン粒剤、デラウスオンコル粒剤、グランドデラウスオンコル粒剤、デラウスプリンスリンバー箱粒剤、プロパック箱粒剤

——— 詳細につきましては、各資材課までお問い合わせください。 ———

本所資材課：0164-26-0124

雨竜資材課：0125-78-3545

北竜資材課：0164-34-2246

幌加内資材課：0165-35-2031



石田邦雄の

農業紡ぎ愛

第1回

農業者としての誇りを胸に

皆さん。こんにちは。私は石田邦雄と申します。多くの方とは初めての出会いかもしれませんが。ただ私は一昨年に開催された空知管内北海道指導農業士等の冬期研修会に招かれたり、多くの農業関係でお話しをする機会を頂戴しておりますので、もしかするとどこかでお会いをしているかもしれません。また月刊「ユーカーントリー」では「石田邦雄の人づくり甘辛談義」というテーマで寄稿をし3年目を迎え、それを介してお会いしている可能性もあります。

ちなみに私は十勝帯広に籍をおき満73歳になります。「職業は？」と聞かれると「講師業」と答えたりする昨今です。そんな後期高齢者が間近な私なのですが、今も道内を軸に様々な団体や企業の組織開発や人材育成等に携わっており、今回も貴JAの職員研修等に人材開発支援アドバイザーとして、多少、関わりあいを持つことになりこの寄稿に結びついたという訳です。

日頃農業者の皆さんに感じていることや、農協職員のありようなどを、第三者としてこの誌面をお借りして

発信できたらと思っています。そうして貴JAとその構成員である組合員の皆さんを結ぶ架け橋のような役割を担えれば光栄です。

ただ筆を運ぶに際し、一つ、皆様にお断りしておかなければならないことがあります。それはかくいう私ですが農業に関しては全くの素人です。わが家に猫の額ほどの庭がありますが、忙しさにかまけてすべて妻任せ。とうとう堪忍袋の緒が切れたのか、「このまま私に任せっぱなしにするなら砂利を入れることも考えますから」と、妻から先日、きついひと言をもらったばかりです。

このような私ですが、よく考えてみると、「農業を知らないこと」を持ち味に、食の生産に携わる皆さんに期待をこめてメッセージを送ることは可能はずです。これまでもそうした視点で農業者の皆様方に「時には甘く」「時には辛く」、門外漢として、話したり、書いたりしながらメッセージを送ってまいりました。この誌面でもそのスタイルを貫き、タイトルは「石田邦雄の農業紡ぎ愛」とさせて頂きました。この号をスタートに「紡ぐ」…これをキーワードに隔月にての連載となります。

私達、農業者が紡ぎJAが存在します。職員が紡いで農協という組織が成り立ちます。またこれからのJAを展望する時、地域の方々とも様々な紡ぎ方が必要とされてくるかもしれません。互いにこうして多くの人や出来事等がある時は縦糸に、ある時は横糸に、互いに紡ぎあつて今があります。そんな思いを「紡ぎ愛」というフレーズに凝縮をさせて頂いた次第です。

ここ北海道の基幹産業は間違いなく農業です。それに誇りを持ち、もつともつとその輪を広げて欲しい。今、求められるのが貴JAで掲げられている経営理念、即ち、「農業振興を通じて地域社会へ貢献する」の実践です。その為に少しでも私のこれまでの経験や知識等を通じてサポートが出来るならこんなに嬉しいことはありません。そんな思いでこれからペンを走らせます。

それではまた私の大好きなアスパラが旬の頃にお会いしましょう。



【著者】石田邦雄（いしだくにお）氏



1946年北海道新得町生まれ。(有)石田コンサルタントオフィス代表取締役、めでの研究室主宰。国鉄、会計事務所を経て中小企業診断士として独立開業。

現在は社会保険労務士、キャリアコンサルタントとして、組織改革や人材育成に携わる。人と企業のマッチングを目指し、中小企業大学校を初めJAカレッジなど、多くの団体、企業と携わる。「教えるよりも考える」、「学ぶより気づく」を柱に、体験学習を交えたわかり易い研修が特徴。著書に「産業カウンセリング」や「縁を結び、人を育む」など多数。

JA職員 農作業実習報告 第4回

先月号に引き続き、若年職員（採用2～3年目）を対象としたJA非常勤役員宅における農作業実習につきまして、各実習生の感想と今後の抱負をご報告させていただきます。（今回で最終回となります。）



①実習先	②実習期間	③作業内容	④感想
深川支所 営農課 荒井 悠志 (平成28年4月入組)			
①深川支所多度志地区 農事組合法人米道産 遠藤 良明 理事宅		②平成30年8月2日～8月6日	
③花きの剪定、収穫作業、選花作業			
④花きの収穫作業ではしゃがんだり、立ったりの繰り返しで腰が疲れました。花きの選花作業の大変さ、何より農家の仕事の大変さを体で感じることができました。慣れない作業で大変でしたが、普段経験することのできない仕事を経験でき、組合員とJA 職員の信頼関係は大切だと感じました。組合員の方と親交を深められる良い機会だったと思いました。			
経済部 車両機械課 福田 卓真 (平成29年4月入組)			
①深川支所多度志地区 農事組合法人ユナイテッド 中西 秀幸 地区代表理事宅		②平成30年8月2日～8月6日	
③花きの剪定、収穫作業、選花作業			
④暑いハウスの中での収穫作業は大変でした。今年は悪天候の影響から花の収穫量も半分近くになっているというお話を聞き、新聞紙面や普段の業務だけでは感じる事のできない事を身をもって感じることができました。受入先の方々から「真面目に仕事をやってくれて助かる。ありがとう。」と言われた時に少しでも力になれていると感じ、実習に来てよかったと思いました。今回の実習を通じて、生産者の気持ちや想いなどを直接感じることができました。今回の実習で学んだこと、感じたことを今後の業務や組合員対応に活かしていきたいと思いました。			
経済部 資材推進課 中村 敦洋 (平成28年4月入組)			
①深川支所多度志地区 農事組合法人ユナイテッド 中西 秀幸 地区代表理事宅		②平成30年8月3日～8月8日	
③花きの剪定、収穫作業、選花作業			
④実家でも花き栽培を行っていますが、実家に無い花きの収穫や選花作業が経験できたことは貴重でした。収穫適期の範囲などまだまだ分からないことが沢山ありました。例年の最盛期であれば、パートさんに残業をしてもらったところだが、職員実習で来てくれてとても助かったと感謝していただこうれしく感じました。			
農業振興部 営農企画課 古川 和也 (平成28年4月入組)			
①幌加内支所 仙丸 孝司 監事宅		②平成30年9月10日～9月13日	
③南瓜収穫作業			
④収穫は中腰の作業が主で、南瓜の重量もあり足から腰、腕にかけて疲労がたまりました。実家は農家ですが、南瓜の収穫経験は初めてで、作業負担を軽減するための工夫を知ることができました。新規就農の方法や、農産物の価格、交付金の内容など様々なお話をさせていただきましたがJA 職員として答えることができなかったことが印象に残っています。組合員がJA 職員に求めているのは、業務の専門性と他業務の広い知識だと感じ、知らなければ組合員との会話にならないと感じました。今回の経験を生かし、農協内外に目を向け広く情報を収集し、組合員に必要とされるよう努めていきたいと思っています。			

JA 北海道大会実践フォーラム パネルディスカッション

昨年 11 月、JA グループ北海道は、第 29 回 JA 北海道大会の決議事項に対する実践機運を高めることを目的に、「JA 北海道実践フォーラム」を開催しました。「多様化する組合員ニーズに応える新たな協同組合の価値創造」をテーマに JA 北海道大会当日に開催したパネルディスカッションの内容を 2 回に分けてご紹介します。(2 回目)

パネリスト

コーディネーター



小野寺 俊幸 氏
JA 北海道中央会副会長
JA ところ 会長理事



青竹 豊 氏
(一社) 日本協同組合連携機構
(JCA) 常務理事



行友 弥 氏
(株) 農林中金総合研究所
顧問 特任研究員



宮入 隆 氏
北海学園大学
教授

宮入教授 JA と生協連間で連携協定を結んでいます。地域課題も様々あり、JA だけで、生協だけで、ではなく、協同組合が連携して新たな課題に対応できるのではという観点で討論したいと思っています。



行友顧問 東北の被災地では農業や漁業再生のため土壌スクリーニング（放射能測定）、漁場再生、農地のがれき処理などで、生協組合員が活躍しました。漁業では、壊滅した三陸のカキの養殖を、ライバルである広島が稚貝を提供して復活させました。協同組合には、地域や分野を超えて連携する底力があるのです。多様な人々が互いに支えあう協同組合の可能性は、垣根を越えた連携にこそあるのだと思います。



青竹常務 協同組合が全国に

宮入教授 JA 施設と生協の流通網を生かすと、もっと力強い繋がりの中で、事業ができると思います。常呂の漁協と JA の連携内容を教えて下さい。

持つ施設は、36.500 と小学校区 1 つあたり 2 つある計算になりますが、遊休施設もある。生協は施設が少ないので、一緒に活用できれば助かる。組合員・職員が一緒に取り組み、よりプラスになることを見つけて、やっていきたい。

生協連で災害対策も担当したが、災害時、生協と JA がそれぞれで被害把握と対応をしています。一緒に助け合いができないでしょうか。食料などの支援物資を JA から頂ければ、生協のトラックで運べます。今年は、災害が多かったこともあり、連携の大切さを実感しています。



小野寺副会長 山に木を植えることから連携が始まり、ガソリンスタンドや石灰工場を JA と漁協で協同して経営しています。また、漁協者が、ホタテの稚貝を撤く時には、農家組合員の若い人も手伝いに行き、漁業者も、農家が忙しい時には手伝うなど、地域産業を盛り上げようと頑張っています。



行友顧問 少し話がすれませんが、
 こども食堂の支援をしているＪＡ東
 京中央の事例をご紹介します。

元々、強い理念があったわけでは
 ありません。子ども食堂を運営する
 市民団体が規格外の野菜を食材とし
 て分けて欲しいと、社会福祉協議会
 を通じて要請してきたのが発端です。
 ＪＡ青年部で協議した結果、規格外
 ではなく正規品を出すことになり、
 差額をＪＡが負担して供給する仕組
 みができました。

これを機に、ＪＡ職員が社会福祉
 協議会主催のこども食堂ネットワー
 ク会議に出席するなど、地域との繋
 がりが強まりました。食堂には畑の
 写真が貼られ、都市農業の現状を知っ
 てもらう食育の機会にもなっていま
 す。参加者を畑に連れて行き、農作
 業を体験してもらおうという話も出
 ているそうです。

地域課題に対応しようとして模索
 を重ねた結果、新たな繋がりができ
 て地域が強くなる。それが望ましい
 形だと思います。理念先行ではなく、
 気がついたら繋がっていた。協同組
 合間の連携もそれが本来の姿ではな
 いでしょうか。

それぞれの協同組合が互いの得意分
 野を活かし合い、自然に連携していく。
 そうなる芽は、たくさんあります。逆
 に言つと、それだけ地域には様々な課
 題があるということです。

宮入教授 気がついたら連携して
 いた取り組みがどんどんあれば良い
 と思います。

これからの抱負、連携についてお
 話し下さい。

小野寺副会長 時代に即した協同組
 合を再構築しないといけないという想
 いを持っています。コンサドーレなどの
 結びつきがあり、大学としては、北海
 道大学や道教育大とも連携しています。

道教育大の将来先生になる学生に、
 青年部員の家に泊まる農村ホームス
 テイをしてもらい。農業の現場・実
 態を見て頂く。そして、先生になっ
 たときには、しっかり子供たちに農
 業を教えてもらう取り組み。青年部
 が学校に出向き、じゃがいもや小麦
 の作り方を伝える、出前講義を行う
 など色々な形の連携が増えていきます。
 協同組合の価値をどう創造してい
 くか。本日を原点として始めて頂き、新
 たな協同組合のあり方を再構築するこ
 とともに、協同組合間の連携で、大きく
 発展していくことを願っています。

宮入教授 協同組合は、すでに地
 域の課題解決に取り組んでいます。
 交流の中で、互いの価値を見つめ直
 し、新たな連携が生まれ、それが皆
 さん自身の活動の見直しにも繋がっ
 ていくことを願っています。最後に
 一言ずつお願いします。

行友顧問 農業や漁業の取材をし
 て感じるのは、生産と消費の現場が
 遠いことです。農家は消費者のニー
 ズを直接知る機会が少なく、消費者
 も、農業者の苦労や想いを受け止め
 ることがない。そのすれ違いが農業
 や漁業を衰退させてきた一因ではな
 いかと思います。ＪＡや漁協、生協は、
 まさに生産と消費を繋ぐ団体であり、
 連携を強めてほしいと思います。

昔の農村共同体は同質な人々の集ま
 りでしたが、今は農業者の規模や作目、
 経営形態も様々。地域には農家でない
 住民も大勢います。互いの違いを認め
 合い、足らざる部分を補い、助け合う
 ことが、これからの社会が目指すべき
 方向ではないでしょうか。

協同組合は、その要になれる組織
 です。そのような思いを持って、今
 後の事業活動を展開していただけた
 らと思います。

青竹常務 第２号議案で、協同組
 合の理念に基づく「人づくり・組織
 づくり・事業づくり・地域づくり」
 を進めると宣言しており、改めてこ
 れが協同組合だと実感しました。協
 同組合が皆さんの役に立つ存在にな
 れるよう、皆さんと力を合わせて参
 りたい。

宮入教授 組合員が多様化する中、
 組合員になって良かったと思っても

らえるかどうか。生協の事例にもあ
 りましたが、組合員の想いを形にし
 る、事業にしていけることが、参加や
 ニーズの多様化に対応する一つの答
 えになるのではないのでしょうか。協
 同組合に集まるからできることを、
 整理して捉え直せば、新たな協同組
 合の価値創造に繋がると思います。

すでに、皆さんが取り組んでいる
 内容は、子ども食堂を含めて、ＳＤ
 Ｇｓにほとんど当てはまる。地域課
 題と構成員が多様化する、難しい時
 代の中で、もう一度整理するきっか
 けとして頂きたい。

ＪＡは、もっと多様な役割を担って
 いると発信するためにも、新たな協同
 組合の価値創造は意味があります。太
 田原先生が、北海道は、協同組合で地
 域が成り立つコープアイランドだと
 言っており、ＪＡだけでなく、様々な
 連携で発展して行けるのではないで
 しょうか。



大会式典に先立ち、生協組合員から
 災害支援金１億円の目録贈呈が行わ
 れました。

退職者

長い間大変ご苦勞様でした

(平成31年3月31日付)



幌加内支所
林 勝美



經濟部 資材課
櫻庭 賢一



金融共済幌加内支所
武石 秀之



販売部 畜産課
横山 輝好



販売部 米穀課
垣野 三智也

林勝美さんは旧イチヤン農協に奉職以来36年、櫻庭賢一さんは旧北竜町農協に奉職以来42年、武石秀之さんは旧雨竜町農協に奉職以来42年、横山輝好さんは旧幌加内町農協に奉職以来42年、垣野三智也さんは旧北竜町農協に奉職以来40年ご勤務いただきました。長い間大変ご苦勞様でした。



大変ご苦勞様でした (平成31年3月31日付)

◆JA共済連北海道出向 鬼原 秀幸
◆総合企画室 融資審査課 伊原 裕明
◆金融共済部 共済課 紺井 茜
◆金融共済部 貯金課 田中 美帆

◆総務部 人事課 中瀬 陽元
◆金融共済納内支所 角 沙織
◆農業振興部 振興課 清水 雄斗

合格おめでとうございます

資格認定試験に次の職員が合格いたしました。

内部監査士

竹原 優晴 前田みゆき 齊藤 基 荒田 勇次
松井 修司 長谷川正治 佐々木正博 小松 努
菅井 智乙 村山 愉香 鈴木 友也

営農指導員

高橋 直行



JAきたそらち太陽光発電所 発電実績

○平成31年2月実績

○累計 (H30.12~H31.2)

発電電力 25,652kWh

発電電力 54,525kWh

計画対比 +14,624kWh
前年対比 Δ2,289kWh

計画対比 +22,743kWh
前年対比 Δ898kWh

ホクレンSS

セルフ給油所

営業時間変更のお知らせ



ホクレンSSでは、**平成31年4月1日**より、セルフ給油所の営業時間を下記のとおり変更いたします

セルフ給油所	夏季(4～10月)	冬季(11～3月)
音 江	7:30～19:00 変更前(7:30～20:00)	8:00～19:00 (変更前8:00～20:00)
イチヤン		
深 川		

※閉店時間を1時間繰り上げさせていただきます。

※フルサービス給油所(納内、多度志、北竜、幌加内)は変更ございません

夏季(4～10月) 8:00～18:00

冬季(11～3月) 8:00～18:00

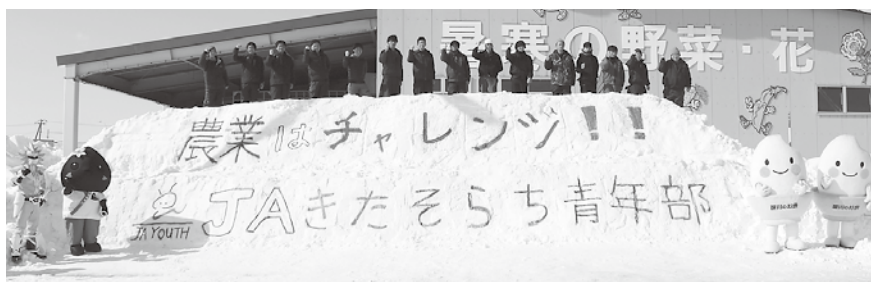
農業振興部からのお知らせ

JAきたそらち青年部 Facebookページを開設しました！

この度、JAきたそらち青年部のFacebookページを開設いたしました。

日頃の青年部活動のご報告を中心に、魅力満載の情報をリアルタイムに発信して参ります。

Facebookアカウントをお持ちではない方もご覧いただけますので、下記URLまたはQRコードから、ぜひアクセスしてください！ URL【<https://www.facebook.com/ja.kitasorachi.seinenbu/>】



JAきたそらち青年部
Facebook

※今月号の新風は休載致します。

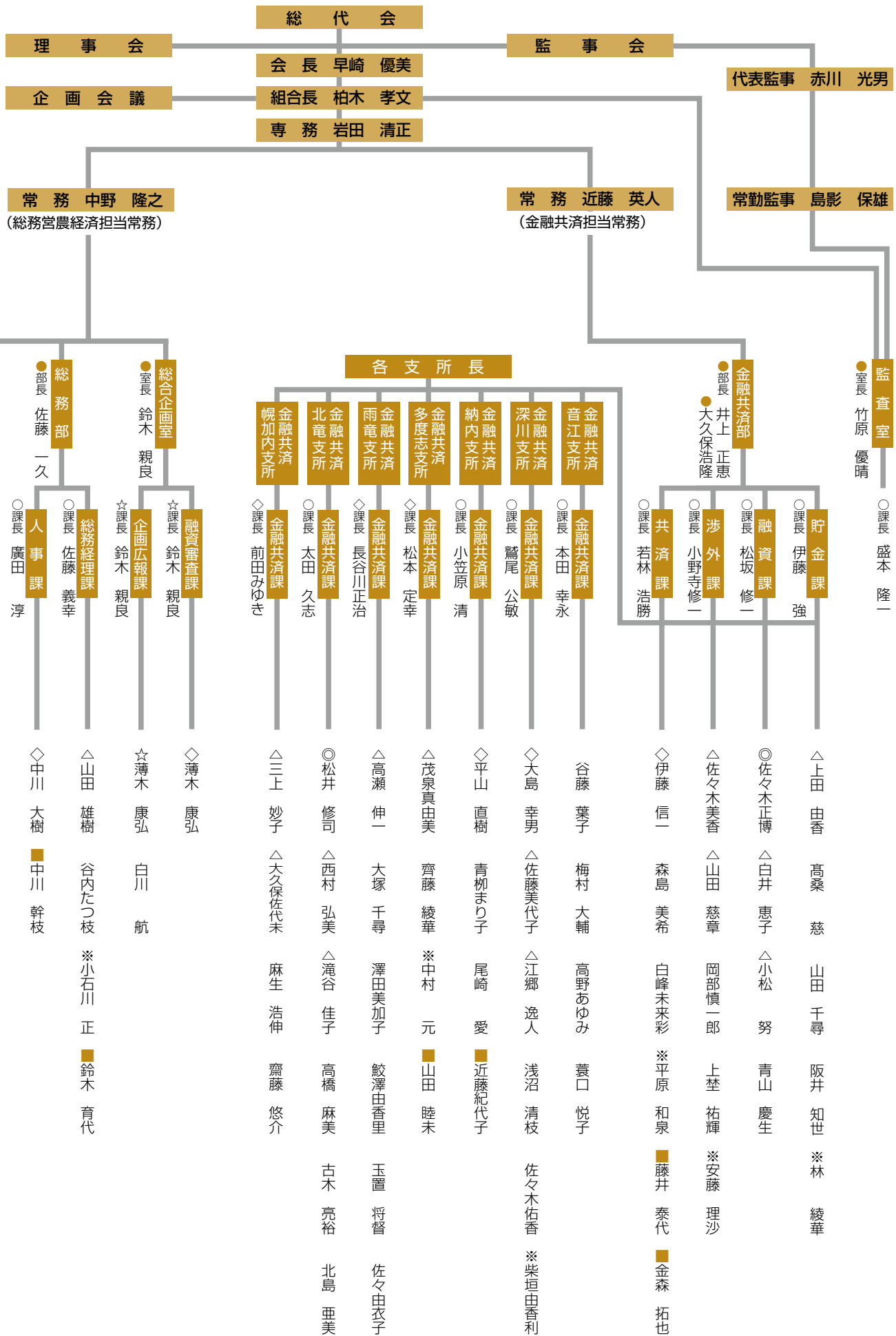


※今月号の健康百科は
休載致します。

組合員の動き

(平成31年2月末日)

		当期首	加入	脱退	当月末
正組合員	個人	1,402	0	5	1,397
	団体	85	0	0	85
准組合員	個人	5,988	5	7	5,986
	団体	329	0	0	329
正組合員戸数		1,015	0	5	1,010

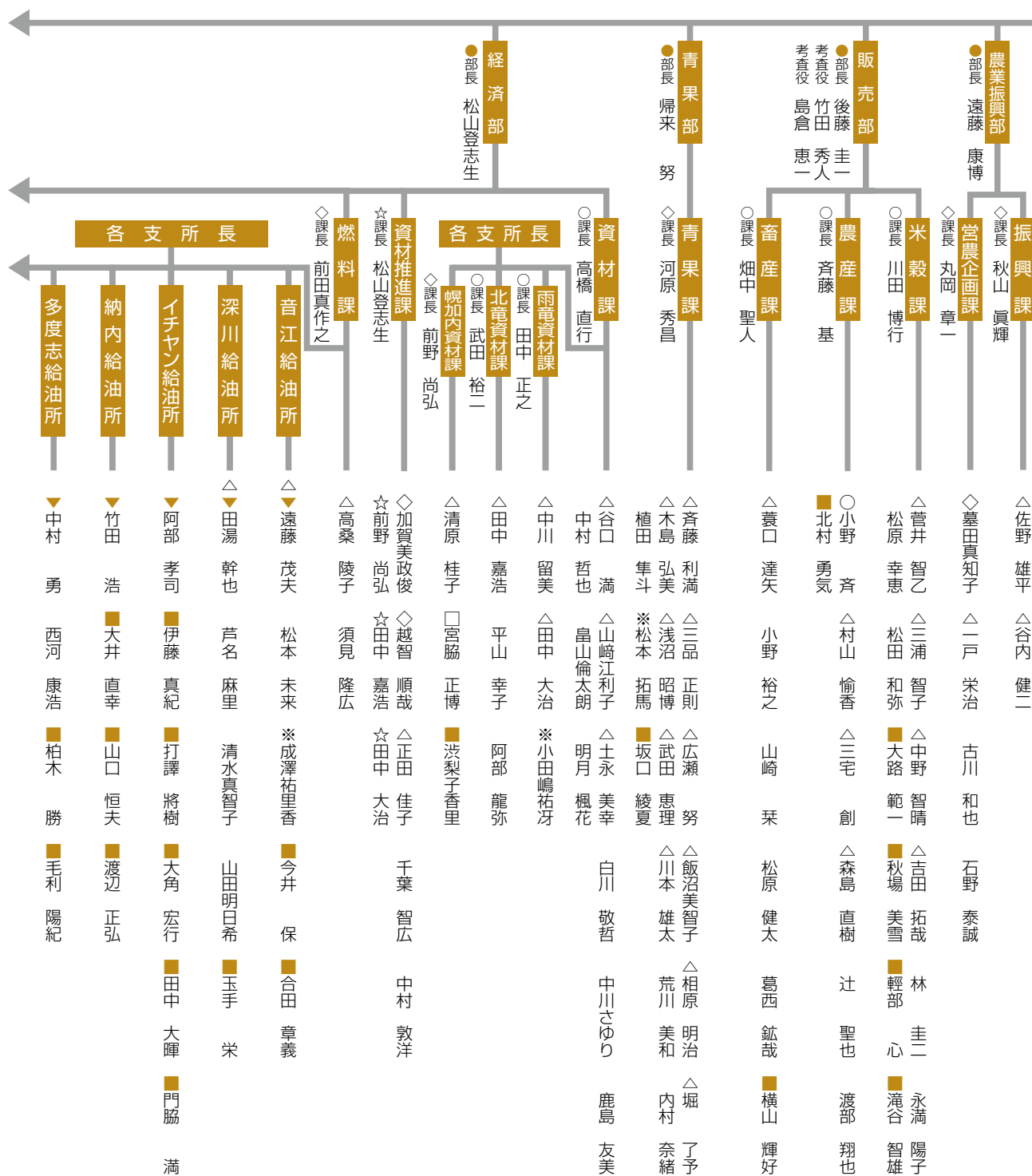


JAきたそらち機構図

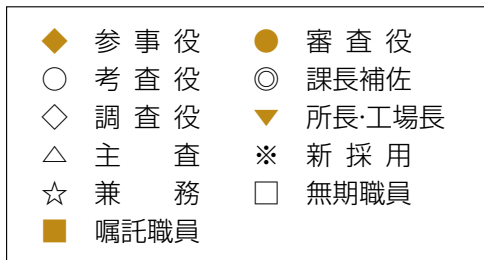
(平成31年4月1日)

- ◆ 参事役
○ 考査役
◇ 調査役
△ 主査
☆ 兼務
■ 嘱託職員
- 審査役
◎ 課長補佐
▼ 所長・工場長
※ 新採用
□ 無期職員

職 員 数			
	男	女	計
正職員	151	66	217
準職員	36	22	57
計	187	88	275

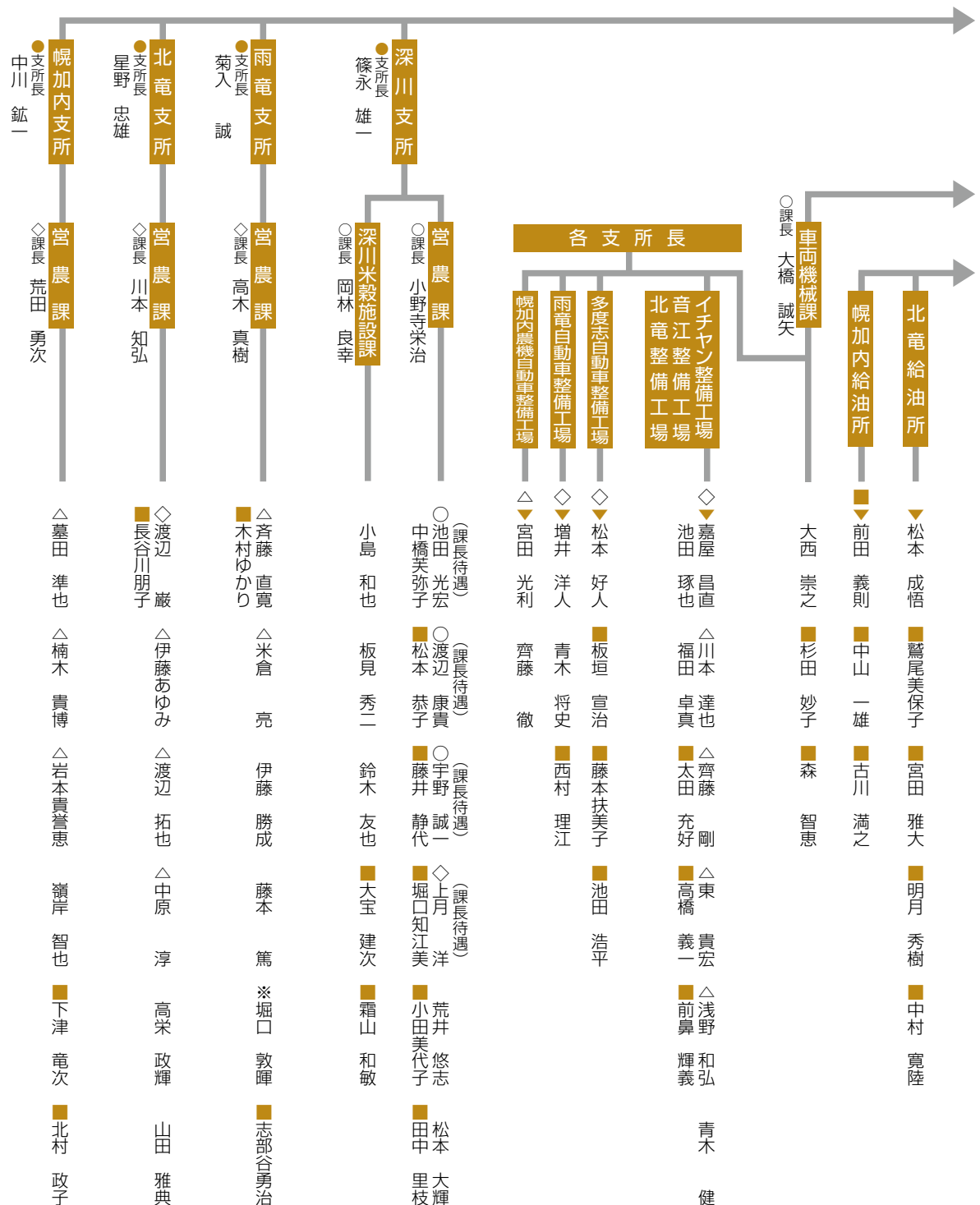


JAきたそらち機構図



北空知広域農協連
◇立花 政志(課長待遇)
柏倉 隆芳
富田 貴浩

幌加内土地改良区
○川崎 光夫(課長待遇)



JAグループ通信

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。

JA北海道大会決議事項の実践やその時々の特ピックスなど、組合員の皆様に定期的にお伝えします。

各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

ホクレン

JAとホクレンは労働力確保が深刻になり

つつある生産現場と、障がい者の社会参加を希求する福祉側とのマッチングを目指す農福連携研修会を昨年12月、札幌市内のホクレンビルで開きました。大学研究者や実際に障がい者を雇用している生産者・JAの他、北海道庁職員ら70人余りが参加。グループデスカッションでは農福連携の実現に向けた課題と、今後の可能性などについて積極的な意見交換が行われました。



JA北海道中央会

JAグループ北海道は、児童養護施設からの卒業を控えた高校生を対象とした調理実習体験「おとなの食育」を札幌市内で開催しました。



この取り組みは、自立支援活動として、JAグループ北海道と興正こども家庭支援センターが共催しており、今回で6回目の開催となります。

高校卒業後、一人暮らしを始める生徒が多く、施設から巣立った後も栄養バランスを考えた食生活を送ってもらい、健康に過ごしてほしいという趣旨で実施しています。高校生10名が参加し、身体に必要な栄養素や食材の消費・賞味期限など食の知識について学んだ後は、調理実習に挑戦。グループに分かれて役割分担をし、協力して楽しく料理する姿が見られました。



JA北海道信連

JAバンク北海道は、地域貢献活動の一環として、野球観戦を通じて子供達に夢や希望を持ってもらうことを目的に、「ファイターズ・ドリームシート」に協賛し、今シーズンは福祉団体を通じて1,200名余りの子供達を招待しました。

「初めて野球の試合を見て楽しかったです。」「声がかかるほど応援しました。」等の感想をいただき、多くの子供達に楽しんでいただきました。



JA北海道厚生連

組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るため、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。

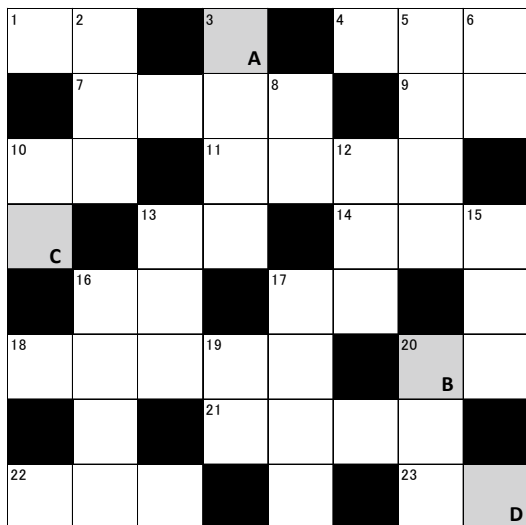
年3回発行しており、様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご読ください。



クロスワードクイズ

提供元:クロスワード.jp



A	B	C	D
---	---	---	---

2月号の正解は

「セツブン」でした。

正解者の中から抽選で3名が選ばれました。

深川市 岡田 幸子 様
雨竜町 小嶋 陽子 様
雨竜町 長谷川直己 様

【タテのカギ】

- 2 草むらを大きく飛び跳ねる昆虫の一種
- 3 青菜などを茹で、しょうゆやかつお節をかけた料理
- 5 コンビニなどに売っている肉が入った中華まん
- 6 精米したコメを炊いたもの
- 8 穀物やもちをつくために用いる木製の道具
- 10 鳥獣や魚を捕獲するための仕掛け
- 12 庭や公園などに植えてある木
- 13 主に漆器を作る漆工に使われる天然塗料
- 15 樹木から分泌される粘液、レジン
- 16 越冬して春に活動を再開する蜜を集めるハチの一種
- 17 集団などに新たに仲間入りすること、一般的に春が多い
- 19 睡眠中に本当の出来事のように頭に浮かぶもの
- 20 五・七・五の十七音からできている短い詩

【ヨコのカギ】

- 1 母の姉妹
- 4 漫画を動画化したもの、テレビ漫画と呼んだことも
- 7 ふたつに分かれて一本の綱を引合って勝負を競う
- 9 髪をといて髪形を整えたり、髪を飾ったりする道具
- 10 種子のまわりに白くて長い毛をつける一年生植物
- 11 種付け用に飼う雄の馬、種牡馬とも
- 13 古くから家畜として飼われる大型で力の強い動物
- 14 幼稚園・保育園の子ども
- 16 視覚によって物の形、色、様子などを知覚すること
- 17 春夏秋冬のこと
- 18 二十四節季のひとつで、毎年2月4日ごろ
- 20 川や谷、道路などの上にかけわたしてつなぐもの
- 21 名をつけること
- 22 ショートケーキにのっかる赤い果物、旬は冬～春
- 23 まとまり、学級、クラス

応募方法

正解者の中から抽選で3名様に農協全国商品券をプレゼント。ハガキ・FAXで①クイズの答え②住所、氏名、年齢③身近な出来事④農協だよりに対するご意見ご要望を記入の上ご応募下さい。

締切4月30日消印有効で当選者とクイズの答えは6月号に掲載します。

【送り先】〒074-0022 深川市北光町1丁目10番10号

JAきたそらち総合企画室企画広報課

FAXの場合は 0164-22-8611

三月俳句

●雨電俳句会

雪の朝新聞配達の靴の跡
裏木戸を軋ませどと寒気団
着ぶくれて朝の厨の背が丸し
指間より小銭こぼれて余寒かな
雀二羽胸ふくらまし春を待つ
コーヒーのもうぬるくなり二月かな
膨らみを楽しみ手折る猫柳

●「道」俳句会 北電支部

親潮に抱かれ魚群や風光る
電子音残る指先冴え返る
震源は彼の地ひひなの寝入端
登校の子へ影のばす松の芯
思春期を想い起こすや猫の恋
春光を淡く濃いめに美術展
一人居の淋しくもあり長閑なり
碎氷のガリンコ号の勇姿かな

●土筆俳句会

凭るものなくて吹かるる雪無尽
春めくや調理実習黄身二つ
着膨れてポストが遠くなりけり
春の雪ひかりをまとい夫の背に
短靴の出番まだかと春の風
鯉群来浜の女の背や躍る
さよならと言われふるふる猫柳

有田 茉莉

大林アヤ子

北川 満江

小山 邦男

松木 五月

宮武めぐみ

吉見サヨ子

山本 玲子

阿部れい子

吉尾 広子

山岸 正俊

山下 好晴

佐光久美子

杉本 隆文

高田 紀子

高尾美津子

池田 美知

引地紀代子

山川 輝子

南川富美子

佐藤英三子

小橋 厚子

第1回理事会 〈平成31年2月27日開催〉

1. 関係団体等諸会議について
2. 平成30年度 内部監査年間業務活動報告について
3. 組合員の加入脱退について
4. 営農懇談会・総代協議会開催日程について
5. 第19回通常総代会議長について
6. 役員報酬審議会の答申について
7. 役員推薦会議の報告について
8. 職員の人事について
9. 平成30年度 決算資産査定結果について
10. 反社会的勢力等との取引状況について
11. 第4四半期コンプライアンス事故報告について
12. 平成30年度第4四半期 内部統制及びリスク管理の取組状況について
13. 太陽光発電 収支報告について
14. 貸出金の貸付報告について
15. クミカン要精算額処理状況について
16. 平成30年度 J Aきたそらち農業教育振興基金収支報告について
17. 平成30年度支所別農畜産物販売額実績について（交付金含む）

- 議案第1号 平成31年度内部監査部門 事業計画について
 議案第2号 出資金の持分譲渡について
 議案第3号 出資金持分相当額の仮払いについて
 議案第4号 出資減口について
 議案第5号 平成30年度 決算及び剰余金処分案について
 議案第6号 J Aきたそらち役職員行動規範並びに人的資源管理基本方針の制定について
 議案第7号 貸出金利率の最高限度及び信用供与の最高限度額の設定について

18. 第6次農業振興計画 販売計画との実績対比について
19. 平成30年度補正「担い手確保・経営強化支援事業」の採択結果について
20. 平成30年度新規就農者受入対策助成金実績について
21. 平成31年度産米の水稲作付意向に係る推移について
22. 平成31年度農業用ハウス強靱化緊急対策事業の申請状況について
23. 農業次世代人材投資事業に係る平成31年度からの見直し等について
24. 平成29年度産うるち米の精算内容について
25. 北海道米の評価に係る米データについて
26. 加工用米・輸出用米の推進について
27. 消費税改訂にともなう共同計算勘定の精算方法の変更について
28. 畜産販売実績について
29. 経済部事業実績について
30. J A変革ビジョン2030の営農懇談会への提案について

- 議案第8号 理事者に対する貸出について
 議案第9号 貸出金の貸付決定について
 議案第10号 J Aきたそらち「精米施設」建設に伴う外構工事の入札について
 議案第11号 平成30年度産米違約金について
 議案第12号 米穀共同計算要領の改正について
 議案第13号 学識経験役員候補者の選出について

第2回理事会 〈平成31年3月6日開催〉

1. 職員の人事について
2. 役員推薦会議の報告について
3. 再建組合員及び準指導組合員の選定について
4. クミカン貸越極度額の設定及び信用評価と対処方針について〈一般組合員〉
5. 平成30年度不良債権処理方針に基づく回収状況について

- 議案第1号 平成31年度 事業計画の設定について
 議案第2号 平成31年度 固定資産取得・処分・修繕について
 議案第3号 第19回通常総代会提出議案について
 議案第4号 会計監査人選任議案について
 議案第5号 平成31年度 役員報酬の支給について
 議案第6号 （規約付属書）監事監査規程の変更について
 議案第7号 組合員規程の一部改正について
 議案第8号 平成31年度余裕金の運用について
 議案第9号 マネロンおよび反社会的勢力等への対応に関する規程類の改正について
 (1)マネー・ローダリング等および反社会的勢力等への対応に関する基本方針の改正について
 (2)反社会的勢力等への対応に関する規程の改正について
 (3)反社会的勢力等との取引排除にかかる対応要領の改正について

6. A L M委員会の協議内容について
7. J Aきたそらち「精米施設」建設に伴う経過について
8. 平成31年度労働力確保における『daywork』の活用について
9. R T K基地局の設置について
10. 平成30年度 青果・花き集荷販売実績について

- (4)マネー・ローダリング等への対応に関する規程の新設について
 (5)当組合における取引のリスク評価書の制定について
 議案第10号 平成31年度不良債権の処理方針について
 議案第11号 クミカン貸越極度額の設定及び信用評価と対処方針について〈再建組合員〉
 議案第12号 労働保険事務組合の平成30年度徴収・納付状況について
 議案第13号 平成31年度 賦課金の賦課及び徴収方法について
 議案第14号 系統外販売取引契約について
 議案第15号 平成31年度 雨竜育苗センター苗価格の改定について
 議案第16号 青果・花き生産振興対策について

JAローンキャンペーン実施中!!

キャンペーン期間
平成31年5月31日(金)まで

JA住宅ローン

住宅の新築・増改築、中古住宅の購入、
土地の購入、他金融機関からの借換に!キャンペーン
対象条件

- ・正組合員および准組合員の方または新たに准組合員になられる方
- ・①～④ご利用中または新たにご利用いただける方
- ①給与振込 ②公共料金の口座振替 ③JAカード ④JAカードローン

固定変動選択型

上記、キャンペーン対象条件①～④のうち、
1項目のご利用で3年
固定

0.50%

【現在の店頭貸出利率 年1.60%】

0.40%

2項目のご利用で

5年
固定

0.95%

【現在の店頭貸出利率 年2.20%】

0.85%

10年
固定

1.05%

【現在の店頭貸出利率 年2.80%】

0.95%

8大疾病補償保険の保険料を当JAが負担!

※ 通常、3大疾病特約を付ける場合は0.1%上乗せ、
8大疾病特約を付ける場合は0.2%上乗せになります。

固定期間終了後もその時点の店頭金利より引き下げ!

固定変動選択型

を再選択で

▲0.50%

変動金利型

を再選択で

▲1.20%

全期間固定金利型

上記、キャンペーン対象条件①～④
のうち、1項目のご利用で

1.95%

【現在の店頭貸出利率 年2.55%】

いずれの金利にも別途、保証料がかかります。
(一括払い・分割払いのいずれかより
お選びいただけます。)

JAリフォームローン

太陽光発電システムや物置、住宅の補修費用に!

キャンペーン
対象条件

- ・正組合員および准組合員の方または新たに准組合員になられる方
- ・①～④ご利用中または新たにご利用いただける方
- ①給与振込 ②公共料金の口座振替 ③JAカード ④JAカードローン

上記、キャンペーン対象条件①～④のうち、
1項目のご利用で

現在の店頭貸出利率

年2.85%



キャンペーン利率

2.15%

※保証料込(北海道農業信用基金協会保証の場合) ※変動金利

詳しくは、
お気軽にお問い合わせ
合わせ下さい!

JAきたそらち

本 所 TEL 0164-22-6618
倉 江 支 所 TEL 0164-25-1111
深 川 支 所 TEL 0164-22-2171
崎 内 支 所 TEL 0164-24-2211

多 度 志 支 所 TEL 0164-27-2111
雨 電 支 所 TEL 0125-77-2331
北 電 支 所 TEL 0164-34-2280
機 加 内 支 所 TEL 0165-35-2024